

好学尚武

練習試合の結果 (新チーム)

24日 (水)

対大宮南高校 途中まで (雷雨)

対狛江高校 雨のため中止

26日 (金) 対立正大立正高校

第1試合 11対5 勝利

第2試合 4対8 敗退

29日 (月) 対都立広尾高校

第1試合 6対1 勝利

第2試合 24対3 勝利

30日 (月) 対宮代高校

第1試合 11対3 勝利

第2試合 16対2 勝利

通算成績 5勝 1敗

本気で!

埼玉県では、過去甲子園に出場した公立高校が「本気で」復活を目指しています。

今大会ベスト16以上の公立高校は、鴻巣高校を除いてすべてそれにあたります。

上尾、熊谷商業、川越工業、所沢商業、川越商業 (現・市立川越)、大宮東、そして我が浦和
市立 (現・市立浦和)

全国的にも公立高校が巻き返しを図っている
ニュースが多く流れています。

「強い私立を倒すことを目指す！」

そんな中学生の入部をお待ちしています。

(上記の学校の中で、市高だけは勉強中心の別
路線といえます。他校の皆さん、すいません。)

受験生の皆さん、8月16日・17日の体験
入部への参加、ぜひ、よろしく願います。

(市高ホームページで受け付けています)

印象に残った選手

(市高がベスト16で敗退した後) 私は高野連
理事としての仕事に戻りました。準々決勝以降を
現場で観て、印象に残った2選手について書かせ
ていただきます。

1人目は共栄・村田投手です。

実は、準決勝の日、私は「チーム付き」といって、
試合中にケガ、熱中症などが起きた時の対応のため、
共栄ベンチ脇に待機するという任務をしていま
した。その時にこんなことがありました。次の
イニングに備えてベンチ前で控え捕手とキャッ
チボールをしている時、その控え捕手がスタンド
にいる味方選手と談笑を始めました。すると、村
田投手がその選手を叱ったのです。「〇〇、スタ
ンドと話すな！」このような任務についている
と、試合に集中せず、スタンドばかりを気にして
いる選手が結構いることに気がきます(上ばかり
チラチラ見ている...) チーム全体がそういう感
じの学校とそれを注意できる選手がいる学校...
ほんのちょっとした違いですが大きな差だと思
いました。

また、この日の任務には報道対応というのもあり
ました。試合終了後、監督や選手に対する取材
時間の設定、終了を伝える...というような任務
です。その時、報道担当の方が言っていた言葉、
「さすが、共栄のエースだな...」これが強く印
象に残りました。この日、共栄は敗退してしまい、
敗退後の取材という形になりましたが、彼の報道
対応、受け応えは確かに立派でした。本多監督が
全幅の信頼をし、彼に全てを託した理由がよく分
かりました。

「安定した力を発揮する心」

市高野球部員に繰り返し伝えている言葉です
が、共栄・村田君のこの夏の姿勢こそ、この言葉
そのものだったのではないかと思います。

彼がこの夏、埼玉県のエースであったことは誰
もが認めるのではないのでしょうか...

もう1人に関しては別の機会で...